

## 1. 太田裕先生のご逝去を悼んで

岐阜大学高等研究院環境社会共生体研究センター

小山真紀

長らく地域安全学会の会員として活動された北海道大学名誉教授の太田裕先生が、2023年2月13日に享年87歳でご逝去されました。太田先生は、1962年に名古屋大学理学部に奉職後、1965年に東京大学地震研究所助手、1966年に同大助教授、1973年に北海道大学工学部教授（建築系）、1989年に東京大学地震研究所教授、1995年に山口大学工学部教授（知能情報システム工学系）、1998年から2012年まで愛知淑徳大学文学部教授（図書館情報学系）を歴任されました。この間、1998年から公益財団法人地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研究所の副主席主任研究員、2006年からは同研究所非常勤嘱託職員、2012年から2020年まで同研究所客員研究員としてもご活躍されました。

太田先生のご研究は地震学から地震工学、地震防災へと広がっており、地震防災分野では、特に、人的被害、人間被害研究という領域を開拓されてきました。当時は大学を移られることが珍しい時代でしたが、太田先生は、大学を移籍されてきただけでなく、所属する大学の研究領域も多岐にわたっておりました。私が太田先生と初めてお会いしたのは、太田先生が山口大学の教授をされていた時であり、その後、東濃地震科学研究所まで、長らくお世話になりましたが、その間、太田先生が大学を移られる度に、着任先の学問領域を精力的に勉強されていることについて「〇〇の教授になったのに（その学問分野を）知らなかったらカッコつかないじゃない」とお話をされており、太田先生の学際研究の広さと深さはこういうところからも体現されているのかと感じたことを覚えております。晩年、それまで人的被害とおっしゃっていたのを人間被害と改められ、この名称にこだわっておられたのですが、この名称は、人の生死だけでなく、人の生活、人生などを含めた被害の概念として提案されていたのだと思います。

去る2024年10月26日に、名古屋にて太田先生を偲ぶ会が開催され、太田先生にゆかりのある、約40名の方々が参加されました。当日は、参加された皆様から、太田先生の足跡、思い出などをお話しいただきましたが、太田先生の多様な経歴故に、参加された皆様が、相互に、知らない太田先生の姿を知る場となりました。太田先生が東濃地震科学研究所に在籍されていたときには、名前を変えつつ、しかし継続的に太田先生を中心とした研究委員会を開催しており、これは人間被害研究ではかなり先端的なものであったと思います。この研究委員会では毎年の成果を報告書として発刊してきていました。太田先生は亡くなる直前まで、これまで発刊してきた報告書に基づいた人間被害の集大成ともいえる書籍の出版を構想されていたとのことで、人間被害の体系化という大きな宿題を頂いた思いでした。謹んで御冥福をお祈りいたします。

